

## 金沢大学「3つのポリシーテンプレート」

【策定単位】自然科学研究科 地球社会基盤学専攻 ※DP・CP策定の最小単位ごとに別葉で作成、かつ、授与する学位が複数存在する場合には授与する学位ごとに別葉で作成ください。

【授与する学位】博士（工学） ※カッコ内に専門分野を明記してください。

大学（大学院）の目的 ※学則、大学院学則から引用	学類（研究科）の教育研究上の目的 ※学類規則、研究科規則から引用
金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。	博士後期課程においては、科学技術分野における学術研究が専門化及び先端化の中で、「学際性」、「総合性」及び「独創性」に富んだ高度な研究者・技術者を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】	【教育課程編成に関する基本的考え方】	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】
自然科学研究科地球社会基盤学専攻は、環境の世紀ともいわれる 21 世紀に、地球の成り立ちを解明するスキルをもつ人材、或いは最先端の工学技術をもちいて、多様な地域社会の未来を探索する幅広い局面における高い専門性と学際性をもつ人材を育成することが、社会から期待されています。 そうした人材を育成するために、本専攻では、所定の課程を修め、かつ研究指導を受けた上で、環境科学あるいは社会基盤工学に関して、先端的技術をもって社会課題解決を提案・実証した博士論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に博士（工学）の学位を授与します。	自然科学研究科地球社会基盤学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、大学院GS発展科目群、専攻共通科目群、専門科目群を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開設します。教育課程については、その体系性や構造を明示します。	自然科学研究科地球社会基盤学専攻は、環境の世紀ともいわれる 21 世紀に、地球の成り立ちを解明するスキルをもつ人材、或いは最先端の工学技術をもちいて、多様な地域社会の未来を探索する幅広い局面における高い専門性と学際性をもつ人材を育成することが、社会から期待されています。そのため、当専攻では、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーをふまえて、下記に示すような人材を求めます。
【学生が身に付けるべき資質・能力】（※「学生が何ができるようになるか」を分かりやすく具体的に記載（シラバスの学修目標のような記載の仕方に心掛ける））	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】	【求める人材】
<p>(1) 高度かつ先進的な専門知識と先端的技術：環境科学または社会基盤工学に関する専門知識や先端的技術。</p> <p>(2) 適切かつ独創的な課題設定能力：社会的な要請や自然環境の変化に対応した状況分析と課題設定ができる能力。</p> <p>(3) 適切かつ独創的な課題解決能力：一連の実験技術、調査法、情報処理能力を修得し、上記課題設定に対して適切な方法を選択して応用することができる能力。</p> <p>(4) 課題解決にむけて学際的かつ総合的に協働して実践する能力：異なる専門分野や価値観の人々と協働して課題解決に向けた計画的かつ組織的活動を実践できる能力。</p> <p>(5) 国際社会で活躍できる自己表現力とコミュニケーション能力：論理的思考力とともに、国際社会で活躍できるリーダーとしての自己表現能力とコミュニケーション能力、つまり、論理的記述、プレゼンテーション、ディスカッション能力。</p>	<p>1. 教育内容</p> <p>研究科共通の「大学院GS発展科目」、専攻独自の「専門科目」、個別の研究課題解決に向けた「専攻共通科目」をそれぞれ設置します。なお修了には3年以上在学し10単位以上の習得が必要となります。</p> <p>(1) 大学院GS発展科目：未来社会の課題を認識し、研究者としての倫理観、国際性を身に付けさせるために4科目を配置し、全て必修（4単位）指定とします。</p> <p>(2) 専門科目：高度かつ先進的な専門知識と先端的技術の修得のため、水工学系、構造工学系、地盤・耐震工学系、環境工学系、都市交通計画系の専門科目（各2単位）を提供します。この中から6単位以上の取得が求められます。</p> <p>(3) 専攻共通科目：適切かつ独創的な課題設定能力および課題解決能力の育成、ならびに課題解決にむけて学際的かつ総合的に協働して実践する能力を育成するための科目として、個別課題に取り組む自然科学特別研究を必修科目（2単位）として配置するほか、自然科学特別演習、ジョブ型研究インターシップを選択科目（各2単位）として提供します。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 工学における最先端かつ幅広い専門知識や技術について、特に地球環境の持続可能性や自然共生型社会システムの構築発展に向けた課題とその解決を見据え、体系的に授与します。</p> <p>(2) 教員と学生または学生間のディスカッションを通じ、直面する地球環境社会の解決案の創造を促すとともに、課題研究における独自性、有用性、発展性が得られるよう導きます。</p> <p>(3) 英語による科目の設置するとともに英語による研究成果の執筆を修了の要件とし、英語コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を涵養します。</p> <p>(4) 課題研究では、主任指導教員1名と2名以上の副指導教員による指導体制とし、指導教員からは個別課題に関する先端の工学的知識・技術に関する指導、副指導教員からは多角的な視野や専門知識から研究の指導・助言を通じ、社会的要請を満たしつつ学術的価値にも優れた研究への発展へと導きます。</p>	自然科学研究科地球社会基盤学専攻では、地球の成り立ちを理解し、最先端の工学技術をもちいて、多様な地域社会の未来を探索する幅広い局面における高い専門性と学際性をもつ国際的な研究者、技術者、イノベーター起業家を目指す学生を求めます。とくに、地球環境の科学的解明、或いは地球環境と調和した持続可能な未来社会をデザインする教育・研究に専攻する意欲や、変化する地球システム・環境に対応したレジリエントかつカーボンニュートラルな自然共生型社会システムの創生に関心があることなどを重視します。
【学修成果の評価】	【学修成果の評価】	【選抜の基本方針】
<p>(1) 科目の成績評価はあらかじめシラバスにて学生の到達目標、評価の基準及び方法を明示し、それらに基づき行われます。評価は、専門知識を問う筆記試験のほか、科目によってはレポートや小テスト、教員と学生あるいは学生間のディスカッション等のアクティビティを総合して、その成果の評価を行います。</p> <p>(2) 学位論文の審査は、和文又は英文で書かれること、その全文又は主要部分が審査員制度の設けられている学会又はそれに準ずる機関によって発行された学術雑誌に発表され又は発表が決定された参考論文が少なくとも1編以上（原則として、筆頭著者かつ英文）出版されたことを要件に、個別に設置される学位論文審査委員会において、専攻分野における工学としての学術的価値とその分野における評価、論文としての内容や論理構成、完成度等を総合して行われます。</p>	<p>(1) 科目の成績評価はあらかじめシラバスにて学生の到達目標、評価の基準及び方法を明示し、それらに基づき行われます。評価は、専門知識を問う筆記試験のほか、科目によってはレポートや小テスト、教員と学生あるいは学生間のディスカッション等のアクティビティを総合して、その成果の評価を行います。</p> <p>(2) 学位論文の審査は、和文又は英文で書かれること、その全文又は主要部分が審査員制度の設けられている学会又はそれに準ずる機関によって発行された学術雑誌に発表され又は発表が決定された参考論文が少なくとも1編以上（原則として、筆頭著者かつ英文）出版されたことを要件に、個別に設置される学位論文審査委員会において、専攻分野における工学としての学術的価値とその分野における評価、論文としての内容や論理構成、完成度等を総合して行われます。</p>	自然科学研究科地球社会基盤学専攻では、アドミッションポリシーに適合する人材を選抜するために、学力検査(口述試験)及び学業成績証明書により、当該専門分野に関する高度な専門知識、課題設定及び解決に関する志願者の能力や資質を総合的に評価して、合格者を決定します。
【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】	【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】	【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】
自然科学研究科地球社会基盤学専攻の入学までに身につけてほしい学習成果は、専門分野に関する高度な専門知識、研究遂行における課題設定・解決能力、及び専門的な研究討論が可能なコミュニケーション能力です。	自然科学研究科地球社会基盤学専攻の入学までに身につけてほしい学習成果は、専門分野に関する高度な専門知識、研究遂行における課題設定・解決能力、及び専門的な研究討論が可能なコミュニケーション能力です。	自然科学研究科地球社会基盤学専攻の入学までに身につけてほしい学習成果は、専門分野に関する高度な専門知識、研究遂行における課題設定・解決能力、及び専門的な研究討論が可能なコミュニケーション能力です。